

平成 30 年度動物愛護週間事業実施報告

国が定めた動物愛護週間（9月20日～26日）には、国、地方自治体、関係団体が協力して動物の愛護に関する普及啓発のための様々な行事が実施される。平成 30 年度動物愛護週間事業として、浜田保健所では「動物愛護展～そばにいる『いのち』～」を開催した。

1. 日時、場所

- (1) 日時 平成 30 年 10 月 20 日（土） 9 時～16 時
- (2) 場所 ゆめタウン江津 3F 中央付近（催事スペース）
（江津市嘉久志町 2306 番地 30）

2. 主催等

- (1) 主催 島根県浜田保健所
- (2) 協力団体 江津市、浜田市、島根県獣医師会浜田支部、ゆめタウン江津
- (3) 参加者 浜田保健所 4 名
江津市 市民生活課 2 名

3. 来場者数 約 100 人

4. 事業実施内容

(1) 展示内容

「動物愛護展～そばにいる『いのち』～」では、保健所へやってくる犬と猫の現状を伝えると共に、適性飼養普及の必要性を多くの方へ知ってもらう内容とした。さらに、災害時にペットと一緒に避難する上で大切な事を伝える展示を設けた。展示物の内容は下表、及び別紙 1 の会場写真を参照のこと。

No.	展示物	詳細
1	島根県の犬と猫の引き取りと その後の状況	県内、及び管内（浜田市、江津市別）の状況をグラフ化して解説。
2	新しい飼い主と生きる	譲渡後動物の現在の姿を写真で展示。許可が得られた飼い主はコメントを付記。
3	浜田保健所に収容された犬と 猫	収容中の譲渡対象動物を紹介。 展示にあたりスクリーン映像を併用。
4	動物遺棄、迷子の現状	イラストを用いて分かりやすく解説。
5	猫の正しい飼い方	同上
6	災害時に備えるペットの飼い 方	熊本震災時の状況変化のアウトラインも用いて避難対策の必要性を解説。
7	インフォメーションコーナー	助成キャンペーン情報、動物愛護団体ポスター等を掲示。

(2) その他の実施事項

来場者に対するアンケートを実施し、協力を得られた来場者 41 組からアンケートを回収した。集計結果は別紙 2 のとおり。

5. 来場者の反応

口頭やアンケートで展示物に対する様々な意見を来場者からいただいた。内容は、より読みやすい掲示物にするための指摘から、イベント内容の提案、保健所業務への応援まで多岐に亘るが、特に処分される動物への感想が複数見受けられた。収容中の譲渡動物に関心を持つ方もおり、収容経緯や現在の健康状態、譲渡制度について問われる方もいた。

また、譲渡後動物の写真を見るべく飼い主とその家族が何組も来場しており、好評をいただいた。その他の来場者も動物たちの写真を熱心にご覧になっていた。

6. まとめ

来場者がいつでも質問できるように保健所職員を会場に常置したことで、島根県の動物愛護に対する考え方や実態を直接伝える良い機会となった。実際に、職員へ積極的に質問し、掲示内容の理解や動物に関する疑問の解消に努められる方が散見された。

適切飼養の普及のため、関連する助成キャンペーン情報等をインフォメーションコーナーと題して掲示し、繁殖制限やマイクロチップの装着普及にも関心をもっていただけるように配慮したところ、パンフレットを持ち帰る、保健所職員に質問するといった反応が来場者より得られた。

また、啓発展示物以外にも現在保健所で譲渡可能な動物を紹介し、動物がスクリーン上で動く姿を映し出すことで、共に生きるいのち（パートナー）としてより興味を感じてもらえるように配慮した。このことで、譲渡希望が後日寄せられ、紹介した動物達の一部が飼い主を得る結果となり、積極的な譲渡推進並びに愛護精神の掲揚につながったといえる。

来場者アンケートでは、今回の動物愛護事業について多数の感想をもらい、今回の展示内容を通じて動物愛護を考える良い機会となったものと感じた。アンケートにご協力いただいた方は来場者全体の半数未満に留まったので、回収率の向上が次回への課題となった。

さらに、保健所に収容されて処分される犬や猫が減るように PR をこれからも行ってほしいという要望なども寄せられた。

このようなご意見ご要望をもとに、浜田保健所では今後も動物の適切飼養と愛護精神の普及に努め、動物と人が共生できるよりよい社会づくりを目指す所存である。

平成 30 年 10 月
島根県浜田保健所